

# 鶴が丘 だより

2018 年度第 2 回

家族教室・講演会

②

## 精神科疾患の治療 ゴールはどこにあるか

渡邊 衡一郎 先生

先月に引き続き、講演会の模様をお送りします。

お薬を飲んでいただくために

私たちは、口すっきりとした口まろやかさなどの飲み心地を何気なく意識して、日本の（東洋）独自の解釈の様に、私たちが織りなす診察時に、お薬の飲み心地はどうかと伺います。また、嫌な症状に早く効く薬は、飲み心地が良い

と感じますが、眠り・だるい・太る等の薬は、不快に感じます。さらに、服薬に対する当事者の納得度合いや、当事者と治療者との関係性などの心理的要素も影響します。

⑧ ディスフォリア（不快感）

服薬を開始し、症状が一旦改善すると、何も薬しめないと感じる時期があり、当事者は薬が要因だと分かれます。これが服薬を中断する理由の一つです。

また、当事者の疲労感の中に、薬の飲み疲れ感があり、服薬を中断する理由の上位に挙げられます。

### ディスフォリア（不快感）



- 当事者の疲労感のいくつかの中に「薬による疲れ」によるものがある
- 疲れとイライラ感と自由に動けないきゆうくつ感とが混じったものである
- 薬によってその強さが大幅に違うが、それとは別に、薬が合っているとふしぎに薬による疲れはおこらない

© 2018 鶴が丘ガーデンホスピタル

プログラムを組み合わせた支援

服薬は、あくまでも治療の入口の土台です。アメリカの研究による退院後の再発率の結果は次のとおりです。

組み合わせ	2年後の再発率
服薬のみ	7割
SST併用	5割
家族療法併用	3割
全て併用	2割

再発を防ぐためには、様々なプログラムを組み合わせることが重要です。また、就労支援に関するプログラムでの実践に、働く場で訓練を行った場合、認知機能とともに陰性症状やQOLも、より改善する。陰性症状が消退し、後には就労支援をするより、就労する場で訓練をするほうが効果的であるという結果です。

ある日の  
鶴が丘

新しい先生をご紹介します

戸坂由香里先生



心理学に興味があり、医学部へ編入したのですね。元々精神科志望でした。趣味は海外旅行で、ハルマシアの世界遺産群、シリアにある「世界一猫が沢山いる博物館」に行きたいです。実は猫アレルギーですが、とても綺麗な病院に驚きました。素敵な環境で診療に励んで参ります。よろしくお願いします。



